

サンロール 株式会社

多様な紙加工設備で、
高い寸法精度と短納期を実現

納期
相談
コスト
相談
試作可
小ロット
量産
対応



最大幅 2.5 メートルまで対応するワインダー加工

業務
内容

**ロール状やシート状など
さまざまな紙加工が可能**

あらゆる紙加工を手がけるサンロール。工場には隅がびつしりと揃った紙が並ぶ。大きなロール状の原紙をオーダーに応じて一定間隔で輪切りにするスリッター加工や、巻き替えや水に濡れた紙の手直しなどをするワインダー加工を中心に手がける。ロール状だけではなく、シート状に切るカッター加工や穴あけ加工、ミシン目加工など、さまざまな紙加工が可能である。約30台の多様な機械を揃えるため、ロール状からロール状、シート状からシート状、シート状からシート状の多彩な加工が自社内で対応でき、取引先は約60社にのぼる。



スリッター加工設備

強み
**高い寸法精度
広い対応サイズと**

「寸法が命」と話す若林孝男社長。スリット寸法は最小15mm幅から最大2.5m幅まで対応し、寸法精度は±0.2mmまでと非常に高い。例えば紙管では、スパイラル状に巻いて造管するため寸法がずれると重なったり隙間が空いたりするが、同社の加工は高い精度で使え、取引先からは好評を得る。また、取引先からは省力化・自動化に伴うセット替え時間の短縮のため大きな直径のロール紙が求められるなか、最

大直径1.5mまで対応する。これらを実現できるのは、紙の薄さや大きさに応じた多様な設備。取引先の要望や作業現場の意見、独自アイデアなどを取り入れた機械をメーカーと製造し、他社との差別化を図る。

**人材
育成**
**社員の技能向上で
高品質と短納期を実現**

掲げるのは「絶対納期」。品質を保ちながら特急品の対応にも自信を持つ。その秘けつは、同じ目的の機械を複数揃えることで、機械待ちの状態を無くすこと。さらに、それを扱う社員の技能にある。詳細な作業手順書を用意し、機械の知識やメンテナンスも勉強。需要が少ない場合など機械化していない工程では手作業の加工もあり、経験やノウハウを重ねてミリ単位の作業を正確にすばやく行う。将来のため、新入社員の採用や教育にも積極的である。

**今後の
展望**
**紙加工のノウハウ生かし
不織布やフィルムへも**

ペーパーレス化が進む。「紙は減ってもゼロにはならない」とするが、紙だけでは成長しない。紙加工で培ったノウハウや技術を生かして、不織布加工やフィルム加工へも挑戦する。特にフィルムは食品向けに需要が高く、新規の取引先が期待できる。ただし食品用の場合は、ホコリや虫よけのために作業場所を区別しなければならず、設備投資が必要。「平成26年3月末までに食品向けを始められれば」と、新たな展開に期待を込める。

COMPANY PROFILE

サンロール株式会社

大阪
25ISO 9001
ISO 14001当社の
歴史

東大阪市で創業し、事業拡大のため門真市に移転しました。平成14年には第二工場が完成。平成19年には紀州製紙株式会社より内外紙工株式会社の事業を継承し、サンロールグループが誕生しました。加工の精度が高いのは当たり前。お客さまが望む納期を尊重する“絶対納期”の考えを基本スタイルに、多様な設備で自動化・省力化を図ります。

切る・包む・運ぶ 充実した設備で
あらゆる加工にお応えします。

代表取締役 若林 孝男さん



■主な事業内容

スリッター加工、ワインダー加工、カッター加工、紙加工全般

■主な取引先（納入先）

製紙メーカー、印刷、製袋、封筒、紙管、紙器、段ボール

住所／〒571-0017
門真市四宮
6-1-25

TEL／072-887-7666
FAX／072-887-7555

創業／平成2年4月
設立／平成2年4月
資本金／1,000万円
従業員／16名

<http://www.sunroll.co.jp/>